SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

まえがき

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 静岡大学人文社会科学部社会学科文化人類学コース 公開日: 2017-01-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山本, 達也, 大野, 旭 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/9952

まえがき

静岡大学人文社会科学部社会学科文化人類学コースでは、3 年次に、「フィールドワーク実習」という授業を開講しています。静岡県内でその年の調査地を選び、1 週間宿泊しながら、地域について学び、報告書を作成するという授業です。

フィールドワーク実習のテーマは、「地域で学ぶ、地域を学ぶ、地域を通して学ぶ、そして地域に学びの成果をお返しする」ということです。文化人類学の方法論を地域で学び、また、地域の歴史や文化そのものを深く学ぶ。さらには、日本全体や、あるいは世界で現在問題になっているような事象を、地域を通して学び、そしてこれらの学びの成果を多少なりとも地域にお返しする、ということです。人間の文化について理解を深める文化人類学にとっても、地域の中で学ぶフィールドワークを教育方針としている静岡大学人文社会科学部としても、この実習は、非常に重要な意味を持っています。

今年は、縁あって、掛川市大須賀地区にお世話になりました。大須賀地区は、北部には小笠山を有し、南部は遠州灘に接する自然環境豊かな町で、文化的な面においては、三熊野神社大祭という伝統的な行事と、ちっちゃな文化展に代表される現代的試みとがうまく繋がっている地区だという印象をもって教員・学生共に大須賀地区に参りました。結果、当初の印象以上に豊かな情景や人びとの営みが大須賀地区には広がっており、また、それを支える地域の皆様による努力を目にすることを通じて、非常にたくさんのことを学ぶことができた実習であったと感じています。

今年度は、八百甚を調査の拠点として、教員 2 名と学生 17 名（伊藤茜・内田良佑・岡田理沙・大内佳樹・川合里香・河田弥歩・菊池紗綺・金恩成・金城珠・小森俊作・田中爽一朗・中村哲人・野口遂・橋本かなこ・森脇琢矢・吉川郁・渡邊春)、加えて本学を昨年度で退職した小松かおり北海学園大学教授の計 20 名が、5 月 30 日から 6 月 5 日までの 6 泊 7 日、大須賀地区で現地調査させていただきました。また、実習の最終日にあたる 6 月 5 日には、掛川市大須賀支所に併設されている大須賀市民交流センターで、現地発表会を開催し、地域の方々に調査の成果を聴いていただきました。

調査の初日には、大須賀地区の方たちにご参集いただき、また、翌日からもさまざまな方たちが八百甚を覗いては、不便はないか、訊きたいことはないか、と気を配って下さいました。八百甚のみなさんには、地域の食材も使ったおいしい食事を提供していただき、私たちの我儘にも応えていただきました。地域のみなさんからのこのようなサポートのおかげで、学生たちはのびのびと調査させていただきました。

最初に大須賀地区との架け橋を提供して下さった（株）伊勢屋肥料農材の石津康好さん、遠州横須賀倶楽部の鈴木武史さん、晴れときどき Cafe の太田聖子さん、今回の調査での受け入れ窓口になってくださった日沢真紀さん、小石川悦夫さん、竹内誠人さん、山口えりさん、各地区長さんたちをはじめとする地域のみなさん、大変お世話になりました。紙幅の都合のため、お名前を挙げることができなかった皆様をふくめて、ここに記して厚く御

礼を申し上げます。

なお、本報告書の刊行にあたっては、静岡大学人文社会科学部学部長裁量経費の助成を受けました。本報告書の内容は、下記の URL からもご覧いただけます。

http://www.hss.shizuoka.ac.jp/shakai/bunjin/

平成 28 年 12 月

静岡大学人文社会科学部社会学科文化人類学コース

山本　達也

大野　旭（楊　海英）